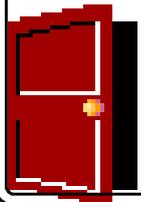


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年11月25日 文責 渡邊

豊かな体験活動と読書活動をつなぐ

子どもたちの「原生林体験」の振り返りから見たこと！

11月11日(金)に、秋の原生林に全校児童で探検に行ってきました。その振り返りを子どもたちは「はがき新聞」にまとめました。

桑村小学校では、読書活動を推進することに併せて、「振り返り」を大切にしています。今回も、友達とともに大きな自然を体感した子どもたちがそれぞれ感じたことを表現することで豊かな五感の育成を図りました。そこには、読書活動から獲得した経験も発揮されていたように思います。豊かな体験活動と読書活動をつなぐことで子どもたちの五感は徐々に成長しています。

では、下記に「振り返り」の一部を紹介します。



【原生林探検の様子】

【1年生のはがき新聞より】

げんせい林では、とりが木の高いところで気もちよさそうにないていました。木のやさしいにおいがいっぱいしました。川の水の音がしました。きれいな音でした。木やはっぱをいっぱいさわりました。気もちよかったです。(1年生)

※「目」、「耳」、「鼻」、「肌」等をいっぱい働かせて、原生林の豊かな自然のすばらしさを自分なりに表現しました。特に「木のやさしいにおいがいっぱいしました」の表現が素直で見事です。体験した感覚を自分なりに表現することで五感がより豊かになったのではないのでしょうか。

【2年生のはがき新聞より】

ぼくはげんせい林たんけんがたのしかったです。ぼくはつかれてきたとき、木があったのでそれをつえにしました。来年は3年生になるので、今年よりもがんばりたいです。6年生が1年生に言ったことば、「がんばってね」「もうすこしだよ」すてきなことばだと思いました。(2年生)

※落ちていた木をつえとして使ったことはよいアイデアですね。自然にあるものをいかに工夫して使うのかもよい経験となったのではないのでしょうか。「『がんばってね』『もうすこしだよ』すてきなことばだと思いました」の表現に温かな気持ちが感じられました。きっと、そうした思いが上学年になったときに下学年に対する優しいしぐさとして現れるのでしょうか。桑村小学校の6年生をリーダーとする異学年交流の良さが、この「原生林探検」で発揮されたことを感じました。

【3年生のはがき新聞より】

原生林の自然について、学校のささの葉と原生林のささの葉の大きさがちがいました。学校のささの葉は小さくて、原生林のささの葉は大きくてびっくりしました。原生林たんけんでは、はんのみんなはつらくてもさいごまで歩きぬきました。とくに1年生ががんばっていてすごいと思いました。(3年生)

※学校にある自然と原生林の自然を比較し表現しています。「原生林のささの葉は大きくてびっくりしました」の記述では、大きな驚きを感じることができました。この驚きから自然の不思議さについての追究がスタートするのですね。

【4年生のはがき新聞より】

わたしは川に注目しました。葉っぱが川にうかんでいてきれいでした。まるで葉っぱのじゅうたんのようでした。今日は、いつも行く季節とちがっていて、ちがう季節のようすが見えました。(4年生)

ぼくは下級生に「だいじょうぶ。リュックをもってあげるよ。」と声をかけながら探検することができました。ぼくが原生林で感じたことは、木がたおれているところがトンネルのようだったことです。また、もみじも赤や黄色に色づいていて自然のふしぎさを感じました。橋から池をのぞいたら、葉っぱがういていて、小さい魚ともみじの色でとてもきれいでした。(4年生)

※4年生は二人の作品を紹介します。「まるで葉っぱのじゅうたんのようでした」や「葉っぱがういていて、小さい魚ともみじの色でとてもきれいでした」の表現は、文章からイメージが想像できました。読書活動から獲得した豊かな表現方法が発揮されたのではないかと思います。

【5年生のはがき新聞より】

今日、原生林探検に行った。春の景色とはちがった景色がそこにはあった。秋にはいろいろな景色があり、いろいろな色があってきれいだった。原生林に行く間に、紅葉している葉っぱがあった。と中に大きな木がたおれていてまたいで行くこともあった。池の水もすきとおっていてとてもきれいだった。秋の原生林もよいと思った。(5年生)

※秋の原生林のよさを表現しています。「春の景色とはちがった景色がそこにはあった。秋にはいろいろな景色があり、いろいろな色があってきれいだった。」の記述から、これまで春に探検していたときとの違いを上手に表現できました。

【6年生のはがき新聞より】

原生林では、落ち葉が赤や黄色ですごくあざやかだった。風がふくと、パラパラと葉っぱが落ちてきた。地面にもいっぱい落ち葉があった。その葉っぱに足を入れると、バリバリと音がしてとても気持ちよかった。山道を進むときには、低学年をはげました。そして、だれかが「つかれた」と言ったときには休けいの時間を作って最後までみんなでがんばってやり通すことができた。6年生としてのせきにんをはたすことができてよかったと思う。(6年生)

※「原生林では、落ち葉が赤や黄色ですごくあざやかだった。風がふくと、パラパラと葉っぱが落ちてきた。地面にもいっぱい落ち葉があった。その葉っぱに足を入れると、バリバリと音がしてとても気持ちよかった。」の記述では、五感をいっぱい働かせた振り返りが見事です。読書活動の経験が思う存分に豊かな表現力として発揮されたことを感じました。また、6年生にとっては小学校生活最後の「原生林探検」。リーダーとして下学年の友達を優しくリードする姿はすばらしかったです。下学年も6年生になったときには今日の6年生の姿を記憶に残し、すばらしいリーダーとして活躍することが期待されます。

今回の「原生林探検」では、五感を働かせた振り返りを子どもたちに課しました。それぞれの発達段階で、子どもたちはその力を発揮したのではないのでしょうか。豊かな体験活動と読書活動をつなぐことで、これからも子どもたちの「感性」を育てていきたいと考えます。豊かな「感性」はすぐには身に付かないかもしれませんが、しかし、桑村小学校は大きな自然に恵まれています。今回の「原生林探検」の活動のように直接体験と読書経験を上手につなげて、本校の「強み」を生かした教育活動を展開していきたいと考えます。